



ふるさとは栗山です。～誰もが笑顔で、安心して暮らすまち～

栗山町



栗山町基礎データ

総人口	11,174人 (R4.8未現在)	製造品出荷額	13,204百万円 (R2工業統計調査)
高齢人口 (高齢化率)	4,598人 41.15% (R4.8未現在)	卸・小売年間販売額	24,631百万円 (H28経済センサス)
世帯数	5,804世帯 (R4.8未現在)	一般会計規模	8,906百万円 (R4当初予算)
人口密度	54.8人/km ²	町の花	ゆり
面積	203.93km ²	町の木	くり
農業産出額	6,660百万円 (R2生産農業所得統計)		

栗山町の紹介

栗山町は、札幌や苫小牧港、新千歳空港からそれぞれ約1時間の夕張山地と夕張川に挟まれた丘陵地帯に位置しています。国道や鉄道が通る交通の拠点として中心市街地が形成され、道内各所からのアクセスがよく、農業を基幹産業とする自然に囲まれた緑あふれるまちです。

開拓の歴史は明治21年、宮城県角田藩士の泉麟太郎らが鋤をおろしたことに始まり、この地を「角田村」と名付けました。昭和24年の町制施行により改称された「栗山町」の地名は、アイヌ語の「ヤム・ニ・ウシ＝栗の木」の繁茂しているところ」に起源しています。

豊かな自然に囲まれた栗山町には、栗山公園をはじめとする町民憩いの公園や、大自然の中でのアクティビティが楽しめる雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス、「人と自然との共生」をテーマにした自然体験教育フィールドであるハサンベツ里山地区があります。さらに、国蝶「オオムラサキ」の国内北東限生息地域であることから、町ぐるみの保護活動が活発に行われています。

交通の拠点である立地条件により古くから商工業も盛んで、製造業をはじめとする多く

の企業が立地しています。また、創業から140年以上の歴史を誇る日本酒の蔵元「小林酒造」や大正12年から「日本一きびだんご」の味を守り続ける「谷田製菓」など、長年、道民に愛されている特産品もあります。

さらに、野球やサッカーなどのプロチームが練習や合宿をしたことのあるスポーツ施設も充実し、誰でも気軽にスポーツに親しむことのできる環境が整備されています。

また、元北海道日本ハムファイターズ監督(現侍ジャパン監督)の栗山英樹氏は、「栗山」という名前の縁から町とかかわりが深く、町民に広く愛されており、平成24年と平成28年の12月には栗山英樹氏単独の優勝パレードを町民一丸となって行いました。

このように、栗山町には歴史・自然・文化・スポーツにそれぞれ味わい深い魅力があり、人と人との繋がりを大切にし、まちを支え合うことが出来る風土が根付いています。

「栗山秋まつり」

三大まつり(くりやま老舗まつり、くりやま夏まつり、栗山秋まつり)と呼ばれるお祭りが春から秋にかけて開催されます。その中でも最も賑わいを見せるのが「栗山秋まつり」

り」です。秋の収穫に感謝して行われる祭礼は全国各地にあります。かつては道内各地の祭礼を回った露天商たちが最後に集まったのが本町であったという名残から、例年、9月24日から26日までの3日間の日程で開催され、道内でも屈指の300を超える露店が軒を連ねます。開催期間中には、地元「くりやまOH!!夢乱咲」チームをはじめ、道内の有名チームが集うYOSAKOIソーランの演舞や、特産品が味わえる「くりやま味覚まつり」も同時開催されており、3日間で10万人を超える人が訪れるイベントとなっております。(上記は令和元年度開催時の情報です。)



栗山秋まつり

まちなかレストラン 「ヤムズキッチン」

商店街での新たな起業や賑わい創出に向けた仕掛けづくりとして、令和2年10月よりまちなかレストラン「ヤムズキッチン」を実施しています。

栗山駅前通り商店街内の飲食店の営業時間外（ランチタイム）をシェアキッチンとして活用。料理が好きな方や飲食店の開業を目指している方が日替わりでシェフになり、シェアキッチンでの料理提供を通じて、飲食業経営のノウハウを習得してもらうことで、食を通じたコミュニティビジネスの促進や地元農産物のPRなどに繋がっています。

これまでに18組のシェフが出店し、うち2

組が商店街内に開業。まちの新たな食の魅力として町内外の方に親しまれています。



まちなかレストラン

【参考URL】 <https://www.town.kuriyama.hokkaido.jp/soshiki/53/115.html>

コミュニティ放送局

まちの様々な情報をFMラジオ番組として発信しながら町民のコミュニティ活動の活性化を図り、有事においては臨時災害放送として町民への情報発信を行うことを目的に、令和6年3月のコミュニティ放送局（FMラジオ局）の開局に向けて取り組んでいます。

その一環として、栗山町から程近い北広島市の「FMメイプル」より栗山町PR番組として「ひるくり！よるくり！」を毎週月曜日に配信しており、栗山町の話を中心にして町内外からのゲスト参加や電話中継を盛り込むなど、生放送ならではのラジオの魅力伝えていま



コミュニティ放送局（PRイベントの様子）

す。同番組はインターネット配信用アプリ「ListenRadio (リスラジ)」で聴くことができるほか、町内の「まちの駅 栗夢プラザ」でも同時放送しています。

ファブラボ栗山

「まちの未来を開拓する担い手づくり」をコンセプトに、ものづくりを通じて自身や地域の課題を発見・解決する能力を養い、自らの生きがいやビジネスに繋げる人材の育成と支援を行うことで、自発的な活動によりまちの活性化を図っていくことを目的として、地域住民に開かれたものづくり工房「ファブラボ栗山」の開設準備を進めています。

ファブラボは共通する運営理念をもとに世界100カ国・1750カ所以上に広がるネットワークであり、レーザー加工機や3Dプリンターなどのデジタル工作機械のほか、アナログ工作機械・工具などを備え、誰もが利用可能な施設形態の一つです。

栗山町では現在、来年1月の正式オープンを目指して町内の既存施設で試行運営を行っており、専属のインストラクタースタッフを配置して、気軽に体験・相談できる見学会やワークショップ、工作設備の貸し出しなどのサービス提供を行っているほか、教育機関をはじめ様々な分野とも連携しながら、効果的なサービスやプロジェクトの検討を進めています。



ファブラボ栗山 (3Dプリンター体験の様子)

【参考URL】 <https://fablabkuriyama.jp/>

栗山駅南交流拠点施設 「栗山煉瓦創庫くりふと」

「栗山町中心市街地都市再生整備計画」に基づく事業の一つとして、既存のレンガ倉庫を活用し、町内外からの集客や交流により生まれる関係人口を創出する役割をはじめ、様々な政策事業で抱える諸課題や事業展開にも対応できる機能を有した栗山駅南交流拠点施設「栗山煉瓦創庫くりふと」の開設を進めています。

地域情報の発信や提供を行うまちの総合案内のほか、前述のまちなかレストラン、コミュニティ放送局、ファブラボ栗山も併設した複合的な機能を集約し、来年1月にプレオープン、同年4月に正式オープンする予定です。施設の近くにはスケートボードなどが楽しめる様々なセクションを備えた「スケートパーク」もあります。

町民をはじめ栗山町に多様な形で関わる人たちが活動し交流するための空間とし、意識を持って能動的に活動・活躍する人たちがまち全体に広がり、賑わいと活気が溢れ、まちへの誇りや愛着を持つ人がさらに増えることで、次代につながる展開を目指しています。



栗山駅南交流拠点施設 (イメージパース)

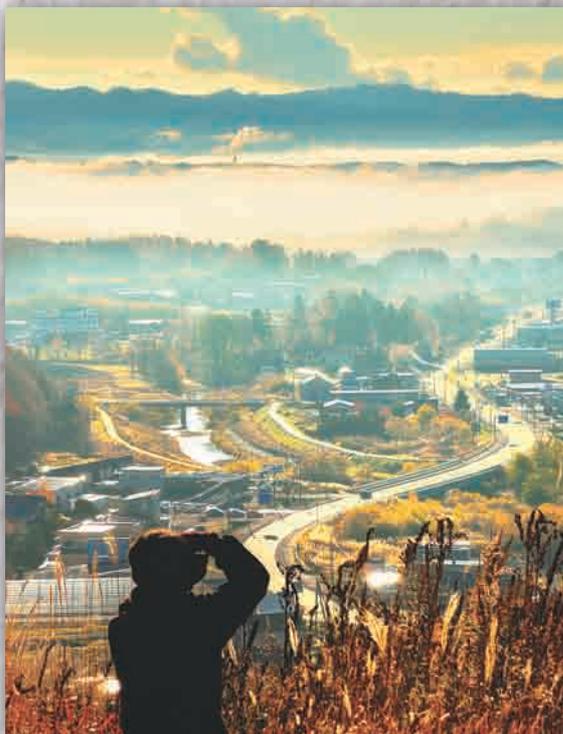
栗山町の四季



【春】サクラ日和(栗山公園)



【夏】田んぼを見ながらアイスを食べる！



【秋】御大師山から



【冬】ホーム

くりやま景観フォトコン応募(入賞)作品